

# さよなら箕面準急

2018年7月7日阪急宝塚線ダイヤ改正



このたびのダイヤ改正で消滅した箕面宝塚本線直通準急

## 1. はじめに

突然ですが7月7日といえば七夕ですね。でも今年の7月7日は七夕以上に大事な出来事がありました。阪急宝塚線3年ぶりのダイヤ改正です宝塚線の支線の箕面線民である筆者にとっても大変重要なことなので、心を込めて書きました。どうぞ最後までお付き合いください。

## 2. ダイヤ改正の概要

今回のダイヤ改正とはどのようなものなのでしょうか。前ダイヤとの変更点を一つ一つ解説していきます。

### (1) 朝ダイヤ

朝ダイヤの変更点を解説していきます。まず箕面宝塚線直通準急、雲雀丘花屋敷行き準急を廃止、箕面直通の普通も2本に絞り、豊中発着の普通も削減します。そしてそれらを池田発普通等に置き換えます。更に日生エクスプレス、通勤特急の時間を繰り上げ、混雑緩和を図ります。また箕面線内折り返しの列車は石橋駅で日生エクスプレス、通勤特急と接続し、箕面～梅田間の所要時間を短縮します。更に川西能勢口駅の通勤特急発車ホームを2号線に統一しま

す。そして宝塚発は急行と準急を交互に発車させ、すべて梅田まで先着とします。このように朝ダイヤでは混雑緩和と所要時間短縮を主な目的とした改正となっています。



通勤特急と日生エクスプレス 通勤特急は阪急最長の10両で運行

## (2) 夕方ダイヤ

続いて夕方ダイヤの変更点を解説していきます。まず梅田発箕面線直通の普通を廃止し、雲雀丘花屋敷行き急行に置き換えます。これに伴い、普通雲雀丘花屋敷行きを川西能勢口行きに変更します。また、梅田駅の発車ホームを4号線 日生エクスプレスと急行雲雀丘花屋敷行き 5号線 急行宝塚行き 6号線 普通 に整理します。このように夕方ダイヤは速達列車を頻発して、所要時間の短縮を目的とした改正となっています。



急行雲雀丘花屋敷行きと普通川西能勢口行き

## 3. 沿線への影響

さて、ここまでダイヤ改正の概要を見てきたわけですが、いろいろ変わりましたね。ここからはダイヤ改正で沿線にどのような影響があるのか解説していきます。なお、僕の個人的な意見も含まれています。ご了承ください。

### (1) 宝塚線沿線

まずメインの宝塚線沿線から行きましょう。今回の改正で最も利便性が上がったのは池田駅周辺といえるでしょう。理由は池田駅始発の普通列車が多数設定されたからです。例えば、朝池田始発の普通列車に乗ると、ほぼ座ることができますね。梅田には後の通勤特急（場合によっては急行）が先着ですから梅田へ急ぐときは豊中まで座りそこで降りて後の通勤特急（急行）に乗り換え

ばよいのです。こうしてみると池田から豊中まで座れるので、朝梅田への通勤通学の負担が減るといえます。

## (2) 箕面線沿線

箕面線について見て行きましょう。はっきり言って今回の改正で箕面沿線の利便性は下がりました。理由は箕面、宝塚線直通の列車がほぼ無くなってしまいうからです。近年箕面市は高齢化が進み、朝夕の通勤通学客が減少傾向にあることと、北大阪急行が新箕面駅まで延伸することが関係していると思われます。石橋で通勤特急、日生エクスプレスと接続して所要時間を短縮するとされていますが、筆者は、通勤特急や日生エクスプレスは石橋到着の時点で乗車率が100%を超えており、そこに箕面線からの通勤客は全て乗り切らないと思うのです。もし乗れなかったら…悲劇ですね。このことから考えると箕面線は今回の改正で少し見放されてしまったといえるでしょう。

## (3) 能勢電鉄沿線

阪急ではありませんが、直通する日生エクスプレスの時間と宝塚線川西能勢口駅の発車ホームが変わるのでそれによって出ることが予想される影響を見て行きます。先述したように日生エクスプレスの時間が繰り上げられます。日生中央の通勤通学客にはありがたいことでしょう。しかし川西能勢口の宝塚線通勤特急発車ホームが2号線に統一されたことにより、これまでの対面乗り換えが不可能になってしまいました。改正後能勢電鉄から阪急電鉄への乗り換えは階段を使って2号線に移動しなければならず、少し不便なものになります。

## 4. さよなら箕面準急

ここではダイヤ改正の話のついでに箕面準急についても書かせていただこうと思います。





## (1) 箕面準急の歴史

箕面準急は阪急宝塚線の支線箕面線と宝塚本線とを直通して箕面～梅田を結ぶ準急列車です。停車駅は、曾根までの各駅と、十三、中津で乗り換えなしで梅田に行け、さらに普通電車より速いので箕面線民にとっては大変ありがたい種別です。その歴史は長く、65年にもなります。登場したころは、千里ニュータウン開発中で、箕面市も着々と発展していました。ちなみに箕面線には亀岡方面へ延伸する計画がありましたが、箕面駅の目の前の山（箕面山）が明治の森箕面国定公園という公園になっていたこともあり、中止されました。1997年のダイヤ改正で準急は消滅しますが、2000年には復活、そして2003年からは準急の停車駅から岡町、曾根を抜いた通勤準急という種別で運行しました。



通勤準急梅田行き（筆者の祖父撮影）

2015年3月21日、通勤準急は消滅し、再び準急として運行を開始しました。このころから、箕面線の通勤通学客は徐々に減りはじめ、箕面線直通準急は存続が危ぶまれるようになりました。そしてついに2018年7月7日、箕面

準急はその 65 年の歴史に幕を下ろしました。

## (2) ありがとう箕面準急

今から 65 年前。終戦の 8 年後、見事に復興を遂げ、経済発展への道を邁進<sup>まいしん</sup>していた大都市大阪、その代表的ベッドタウンに箕面を育て上げた原動力の一つが箕面準急だったといっても過言ではないでしょう。彼がこれまで何人の人々を大阪梅田に送り届け箕面市の発展に貢献したか、それを思うと感謝しかありませんね（あくまで個人の意見です）。阪急の一盲腸線に過ぎない箕面線を彩ったその緑色の幕は利用した人々の心に深く刻み込まれたことでしょう。65 年間ありがとう箕面準急、そしてさよなら箕面準急！



## 5. 最後に

いかがでしたか。途中少し熱くなってしまって申し訳ございません。今回の改正で箕面 宝塚線直通の列車が完全に消えたわけではありません。しかし今後も利用客数が減り続ければ、それらも消えてしまうでしょう。箕面線の動向にも注目です。今回のダイヤ改正で自分の生活にどのような影響があるのか、考えてみるのもよいでしょう。それではこのあたりで失礼させていただきます。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

## 6. 参考文献

阪急電鉄公式サイト [www.hankyu.co.jp/topics/details/799.html](http://www.hankyu.co.jp/topics/details/799.html)

鉄道ニュース 2018 年 7 月 7 日阪急宝塚線ダイヤ改正

[railf.jp/news/2018/05/23/131000.html](http://railf.jp/news/2018/05/23/131000.html)

写真は特記がなければ筆者撮影

